

令和7年2月26日(水)
内子分庁3階大会議室

内子町部活動地域移行推進連絡協議会(第6回)会議録

挨拶 お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

第5回に引き続き、第6回を開催できることを感謝します。本日も県スポーツ広域センターから3名の方に来ていただいています。今回が最終の回になります。本日、地域クラブ運営団体を設立する準備を進めてよいか結論を出したいということです。地域クラブをどう運営するかなどについては、今後の課題とさせていただき、まずは設立してよいか結論を出していきたいと考えています。

◆協議1 前回からの動向について(報告)

- (ア) 第5回部活動地域移行推進連絡協議会会議録
- (イ) 拠点校部活動説明会配布資料
- (ウ) 拠点校部活動確認事項
- (エ) 地域クラブ活動での中体連競技大会参加について
- (オ) 指導者について聞き取り状況について
- (カ) 公立学校の教師等が地域クラブ活動に従事する場合の兼職兼業について
- (キ) 総合型地域スポーツクラブサミット2024について

委員 (エ)の資格について、ハードルの高さを感じるとともに、国の動向的にはあいまいな感じを受けるが、内子町として令和8年度に向かって(地域移行を)やって大丈夫なのか。国からの強い力の働き掛けはないのか。

事務局 先日の担当者会において、国全体として積極的な動きが示されるというものではなかった。スポーツ庁としては、地域移行を進める方向性に変わりはないが、期限については当初令和8年度までと言っていたところを延ばそうとしている様子が見えた。中体連と国の動きが合致していない印象を受ける。

アドバイザー 休日については、次の3年間、平日については次の6年間かけて部活動を地域移行させていこうという方向性であると思う。県の方もできることから推進していく方向性ではある。全国1700自治体がある中で、状況も様々であり、各市町村で期限を切ってどうするかについては、それぞれが検討する必要がある。

委員長 各市町村単位が、自分たちで決めていく必要があるということのようだ。

事務局 地域クラブ活動になった場合に、大会に出られない恐れがあることから、県中体連の理事長に今後の方向性について問い合わせた。全国中体連では、毎年度協議を進めてはいるが、指導者の在り方についてもしっかりとものを位置付けたい流れではあるとの回答であった。また、部活動を残して、部活動として大会参加することが可能かについても質問したが、地域クラブ活動との位置付け(すみ分け)は明確にする必要があるだろうという回答であった。

委員 岐阜県白川町の例は、部活動を残すことで大会に参加しているのか。

事務局 岐阜県は、県独自の資格を認めて大会に出られている。

◆協議 2 地域クラブ活動の構想案について

(ア) 内子町における総合型地域クラブ活動の構想

(イ) 意見交換

(ウ) 今後の予定及びまとめ

委員長 意見交換だが、要は昨年から協議を重ねてきたクラブを設立していいのか、運営主体をつくっていいのかという結論を出していただきたい。

委員 白川町の取組の「延長部活動」について、この地域は学校としての部活動を残しているということか。

事務局 残している。

委員 関わる方々が変わっても、学校部活動として認められればというのは、この県だからいいのか、愛媛県の場合はどうなのか。

事務局 県内でも、例えば、平日部活動、休日地域クラブとしていても、学校が部活動として参加登録すれば、学校から出場できる。

委員 今回設立するのはどうかということを考える上で、片方に、学校部活動の形を残していくのかについても考える必要がある。これから何年間を見越して、全国の動向を見ながら部活動を残して、見通しが立てば地域クラブへということも可能ということによいのか。

委員長 そのようになる。

アドバイザー 種目ごとに地域クラブに移行することもできる。難しい種目については部活動を残しておくというのも選択肢としてはある。

委員長 現実的にすべては無理で、できるところからという考え方にもなるだろう。そのためには地域クラブをするための運営主体はいるということになる。

事務局 先生方はいろいろな役割があり、負担も大きい。ここに、別の運営団体があるとなれば、役割分担の環境作りができる。

委員 現在、教員の為り手（担い手）は少ない。部活動がネックになっていて、部活動がなければ教員になろうという人もいる。教員の確保は大きな課題。特段の技能を教員が持っているということも少なく、技能を持たず部活動を割り振られることにしんどさがある。地域移行が進めば、例えば、教員は調整に関わりながら、専門的なところは地域の指導者に関わってもらえることもできると思う。

委員 指導者がポイントとなる。各部活動で先生がやると言っていることはありがたいと思う。兼職でも、教員には平日は払いづらいが、休日は支払える。外部指導者には平日も払える。このあたりがクリアにならないか。クラブを立ち上げることでどうにかできないか。

委員長 地域クラブで教えるとなると兼職兼業となる。

事務局 時間の縛りも大きい。時間外として過度な負担を掛けられないという意味合いもある。先生方も普段からいろいろな業務があり、切り分けにくい状況もあるため難しい。

委員事務局 指導者の確保は、どのようなスケジュールで進むのか
今年度何人か指導員に入っていただいている。まず関わっていただく機会を持ってもらう。今携わっている人も関わる中で、子どもたちを大事に思う気持ちが大きくなってきた。研修の機会をもって困り感を一緒に考えて乗り越える仕組みを作りたい。

委員長委員 スポーツリンク白川のような形はありかなと思う。一般社団法人の事務局があり、そして先生がいてくれるというのは、子どもとして安心だと思う。ハラスメント系の防止にもなり、子どもたちの心の支えになってもらえるのでいいと思った。兼職兼業の時間単価は、例えば愛媛県の最低賃金でもいいかとも思う。

委員長委員 先生の時間外単価はない。教員にはない。
今現在、360～370名。5年度270～280名。10年後210～220名。そのうちほとんどの部活ができなくなる状態があり、できれば緩く長く続けたいと思う。どうしても存続しない部活動がでてきたら、やりたい部活がないからやらないとなる。地域の活動になっていくと不都合がでてきて、学校の先生がやっても難しいのにそれ以外の人がやってももっと難しいのではないかな。様子を見ながらやっていて、今の形が続けばいいのではと思っている。

委員長 文科省の考えでは、地域展開は遅れていく。拠点校部活動は今の内子町にあって、今の部活動ができればいいと思っている。ただ、大きな流れでは移行。先生の負担軽減も必要である。できるところから徐々にというのがいい。

委員 今言われた方法がいいと思う

委員事務局の方から法人化していくというのがあって、そこに所属する団体がある。内部的には、これは部活動、これはクラブという形で認可されるのか分からない。

委員長委員 共存はだめなのか
それがどう判定されていくか分からない。移行はスポーツ庁が言ったのでやらなければならないということになった。中体連は積極的に動きづらい状況の可能性はある。各県において登録したクラブチームを認可している。認可がどうなるか。内子町が、自分たちの都合の良いようにしていると受け止められる危険性もある。

アドバイザー このクラブは地域クラブ、休日はクラブで行っているなどのすみ分けが明確になっていることが必要だろう。責任団体の位置付けもあるのではないかな。

委員 吹奏楽も勝ち負けがある。勝つために努力しているところもある。町の方針がしっかりしていればよいのではないかな。方針があって認められる

委員長 勝利至上主義があれば、中体連の考え方には合わない。しかし、内子町は勝利至上主義ではない。子供たちの環境を整えている。そこを中心に考えてほしい。

委員 自分もその点は承知している。

委員 それでも判定は難しい面もあると思われる。

委員長委員 多分しづらいだろう。
事務局は指定管理者などではなく、法人化していない団体ではだめなのか。事務取扱だけでも負担感が減らせる。

事務局 負担感を減らす方法は、様々な方法があると思う。押さえておきたいのは、責任

がとれる、業務がしっかりできる事務局が望ましい。資金集めも工夫が必要。ネットワークを想定している。スポーツリンク白川は、子供たちの活動にいろいろな案件がでてくるが事務局が対応している。保護者の意識を変えるくらいしっかり説得している。現在の教育委員会の中で行う業務としては難しい面も感じる。当初に教育委員会という話もあったが、切り離した方が良い面もある。

委員長

法人化準備室を立ち上げるというのはどうだろう。

委員

いきなりはできないのでそういうものを作っていけばと思う。

委員長

法人化するとなると、クラブマネージャーが必要。拠点校部活動をしながら整理しながら準備する。

委員

来年度からの具体的なイメージとして、①移動に関することの事務を別団体で行う、②準備ができた部活からクラブになるということか。

委員

資料では、来年度に設立委員会。再来年度に法人化となっている。なので、再来年度の話となる。

委員長

徐々に移行ということだが、地域移行したり拠点校が残っていたり、前者はマネージャーで後者は学校がという、このすみわけは難しいのではないか。

委員

地域クラブも部活動も実質事務局が大きく関わってくるだろう。

委員長

先生にとって部活動の負担は、事務局が少し担えるようになればよい。その方法を来年度協議していきたい。

事務局

学校部活動を残す話があるのは、指導者の資格取得の必要からだと思う。資格を持つ指導者がいれば移行が進む。現在の学校部活動において、学校同士の先生で連携しながら模索するということによいか。

委員

そのようになる。

委員長

当面拠点校でうまくいっているので、法人化の団体を作り、人材育成して学校に送り込んでもらう。学校に送り込んでもらっても負担感は減ると思う。

委員

そのようになる。次の地域クラブについて、まだ問題点はあるが、地域クラブを設立するという方向で進めることはよいか。

委員長

異議なし。

全委員

国の方向性も変わっていくだろう。ただ、その中で、子どもたちにとって部活ができるのは一番大事なこと。柔軟に対応していく。

委員長

今年度としてクラブ設立する方向でいいということを受け、来年度しっかり準備進めたい。拠点校部活動の課題もあるため修正していきたい。来年度以降もお力添えをお願いしたい。

事務局

挨拶 年間を通して多忙の中、協力いただきありがとうございます。内子の子どもたちが輝ける環境を5年後10年後も残すということが大事です。来年度からクラブ設立準備を始めますが、雲をつかむ状況の中、難しい議論となると思われます。来年度もよろしく願いいたします。